

ヨシジマ 葭島 石川郡大桑の内の小字。  
ヨシジマモトヤマシ 吉島元山石 羽昨  
郡福浦小字吉島元山から産する石材。輝石安  
山岩で、艶灰色石基中に黒色又は白色小斑點  
を有し、質粗糲である。

ヨシダ 吉田 石川郡吉田漆島の内の小字。  
ヨシダ 吉田 羽昨郡押水北庄に屬する部  
落。明治中に至つて、南吉田と改めた。

ヨシダ 吉田 羽昨郡堀松庄に屬する部落。  
明治中に至り北吉田と改めた。永祿十三年六  
月十二日畠山義胤の判書に、『堀松吉田之内三  
千疋宛行候。』と見える。

ヨシダ 吉田 鹿島郡吉田保に屬する部落。  
ヨシダアツモチ 吉田暖茂 茂實の子。幼  
名七郎、後九兵衛。御持弓頭・兼御用人・御近  
習御用・御用人に歴任した。祿初め六百五十  
石であつたが、天明五年十一月百石を加へ、  
七年五月三日四十九歳を以て歿した。

ヨシダイオリ 吉田伊織 父は又左衛門直  
元。前田利常に召出されて千石を賜はり、能  
州郡奉行・足輕頭を勤め、後慶長十年利長に  
富山に附隸し、十七年金澤に遷され、寛永中  
能美・江沼の御郡奉行となつた。その長男源  
左衛門は富山藩臣として七百石を領し、二男  
覺右衛門は前田利常に仕へて新知・加増共七  
百石を賜はり、三男は生駒孫助と稱して松平  
越中守に仕へた。

ヨシダイチザエモン 吉田市左衛門 前田  
利常に仕へて百五十石を領した。子孫藩に世  
襲する。  
ヨシダウルシジマ 吉田漆島 石川郡山島  
郷に屬する部落。郷村名義抄に、吉田村・漆島  
村二ヶ村に稱へたこともあるが、正保・寛文・

貞享の高辻帳には吉田漆島村になつて居ると  
ある。邑傳に、前記吉田村は初め神田村と唱  
へたが、手取川汎濫によつて流失し、復興の  
後名を改めたものであるといふてゐる。

ヨシダカズノリ 吉田貞徳 通稱八百助・八  
右衛門。天明五年御細工者小頭として新知八  
十石を受け、寛政二年組外に列して二十石を  
加へ、享和三年五十石を増し、文化七年九月  
九日五十九歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕  
へる。

ヨシダカタモト 吉田方本 平兵衛と稱し、  
茂方の次子である。初は元方とも方元ともい  
うた。山城山科に住したが、慶長十七年前田  
利長に仕へて三百石を賜はり、大坂再役に天  
王寺口本町で首一つを獲た。兄茂武・弟茂氏  
と偕に射藝を究め、別に居物の一傳を創め、  
元和九年正月廿四日四十一歳にて歿。子孫世  
世藩に仕へる。

ヨシダガハ 吉田川 鹿島郡瀬戸領梅木平  
より出で、西下領で二宮川に落合ふ。流程四  
料許。

ヨシダキヨマサ 葭田清正 通稱内膳。前  
田利常に仕へて五百石を受け、萬治二年開番  
に任じ、寛文三年歿。子孫世々藩に仕へる。

ヨシタケ 吉竹 能美郡苗代郷に屬する部  
落。陸奥軒日録文明十九年五月廿一日に、『上  
乘庵領賀州吉武村飯尾四郎被官人淺見違亂、  
自寺家訴之。』とあり、又永祿五年四月の文書  
に、從來西郡某の知行分であつた吉武村を子  
細あつて幕府の御料所にしたとも見える。こ  
れらの吉武は今の吉竹であらう。

ヨシタケ 吉武 ↓ヨシタケ 吉竹。  
ヨシダシゲウジ 吉田茂氏 幼名合力、後

大藏又は大内藏と稱した。左近右衛門茂方の  
三子。初め富田信高に仕へたが、慶長の末前  
田利常に來り、四百石を賜はつて射手衆に任  
じ、大坂役に從軍して功を立て、漸次増祿し  
て千四百石となり、正保元年正月廿一日五十  
七歳を以て歿した。茂氏容貌魁岸、元和・寛  
永の間三十三間堂に通矢を試みることに前後七  
次、射藝を究極して其の名天下に稱せられ、  
號して大藏派と言ふた。子左馬助茂綱寛永十  
九年父に先だち二十七歳を以て早世したの  
で、茂氏之を悲しんで繼嗣を置かず。爲に家  
斷絶した。

ヨシダシゲカズ 吉田茂和 通稱左門。茂  
直の子。延寶六年父の祿五百五十石を襲ぎ、  
天和二年先弓頭となり、元祿十四年射手裁許  
に進み、寶永五年歿。茂和嘗て一日萬矢を試  
み、父の賞する所となつた。

ヨシダシゲカツ 吉田茂勝 通稱丹右衛門・  
右衛門・權佐・小左近。茂武の嫡男。前田利  
常に仕へて新知二百五十石を受け、父の歿後  
その祿の中四百石を加へて六百五十石となつ  
た。茂勝家藝の射術に長じ、寛永中三十三間  
堂に試みた矢數は一時無雙と稱せられ、職先  
弓頭となり、射手頭を兼ね、寛文四年歿した。

ヨシダシゲキヨ 吉田茂清 通稱左近・左太  
夫。茂勝の子。寛文四年父の遺知六百五十石  
を襲ぎ、十年十二月御先弓頭兼御射手頭に任  
じ、天和二年九月御持弓頭に轉じ、正徳元年  
四月廿六日七十一歳を以て歿した。

ヨシダシゲサネ 吉田茂實 茂陸の子。幼  
名大力、後權佐・左太夫。祿六百五十石。御大  
小將・御先弓頭となり、寶曆十年正月十八日  
六十歳を以て歿した。

ヨシダシゲタケ 吉田茂武 通稱權之助・  
左近。初め豊田秀次に仕へて射手頭であつた  
が、慶長元年前田利長に來附し、五百石を受  
け、大坂再役に首級一を獲、後足輕頭となつ  
た。寛永六年歿。茂武の父は近江の人で、左  
近右衛門茂方といひ、豊田秀吉に仕へ、入道  
の後木及と號した。三子茂武・方本・茂氏並び  
に射を善くして加賀藩に仕へ、茂武・方本の  
家は子孫相襲ぎ、茂氏は嗣なくして絶えた。

ヨシダシゲツナ 吉田茂綱 通稱左馬助。  
茂氏の子。年十四にして三十三間堂の通矢を  
試みた。後疾に會つたが、父は尙弓術の練習  
を強ひた爲堪へずして歿した。時に寛永十九  
年、齡廿七。

ヨシダシゲナホ 吉田茂直 通稱忠左衛門。  
實は池田兵助の子。前田利常の命によつて茂  
武の養子となり、祿加増共に五百五十石を受  
け、後旨を奉じて叔父茂氏の女を娶り、茂氏  
の射術を皆傳した。萬治二年御先弓頭に任  
じ、慶安二年御射手頭となり、延寶六年閏四  
月歿、享年七十五。

ヨシダシゲノリ 吉田茂存 通稱平兵衛。  
重張の子。實は茂清の二男。重張の後を受け  
て五百石を受け、御先弓頭・御持弓頭に歴任  
し、延享元年五月二十七日七十七歳を以て歿した。

ヨシダシゲハル 吉田重張 元茂の子。通  
稱三郎・助右衛門・左近右衛門。元祿五年父の  
遺知五百石を受け、寶曆六年正月十日六十三  
歳を以て歿した。